

おおらかな屋根がみんなを受け入れ、いつも賑わう、まちの屋内広場

～ウォーターフロントと一体となり、新たな体験価値を生み続ける場～

※プロポーザル方式は、最も適切な提案者（人）を選ぶ方式であり、提案内容が必ずしもそのまま設計案となるものではありません。



桜島と調和するおおらかな屋根の佇まいとその下に展開する人々の活動



夕暮れの錦江湾から望む美しい大屋根が新たなシンボルとなる



マイアミ通りから吊り屋根の谷部越しに桜島を望む

1 まちとうみをつなぐパッセージが新たな賑わいを生み出します

〈テーマ3〉インバンドを含めた観光振興や賑わい創出、中心市街地の活性化

・中心市街地からマイアミ通りを抜け、広場を介してウォーターフロントパークへと連続する、まちの居場所をつくります。



まちの屋内広場
このエリアで親しまれているウォーターフロントパークという屋外広場に対し、本施設をまちの屋内広場として展開し、屋内外が連続・連携するスポーツコンベンションセンターを計画します。

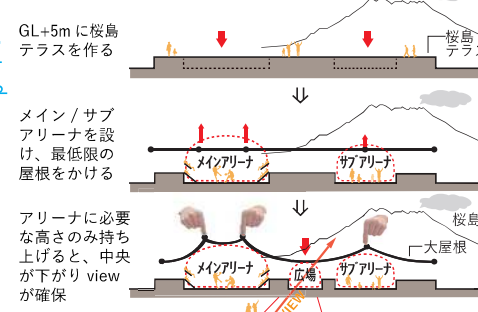
スポーツと観光をつなぐ
スポーツタウンの中心として、周辺のホテルやフェリーターミナルとも連携し、スポーツと日常、観光が自然に交わる、地域にひらかれた場所をつくります。

マイアミ通りとの連携
週末イベント時には歩行者天国となるマイアミ通りと連携し、中心市街地とウォーターフロントエリアをつなぎ、鹿児島島のまちに賑わいを生む拠点となります。

2 みんなの原風景である桜島への眺望を守ります

〈テーマ2〉桜島の景観を望む本港区エリアにふさわしいデザインを備えた鹿児島島のシンボリック施設

・桜島の雄大な景観との調和を考え、山の稜線と呼応する吊り構造の屋根とします。
・メインアリーナを北側配置し、隣接建物からの眺望、騒音の影響に配慮します。
・メイン/サブアリーナ間に吊り屋根の谷の部分を持ってこることで、桜島への眺望を最大化します。



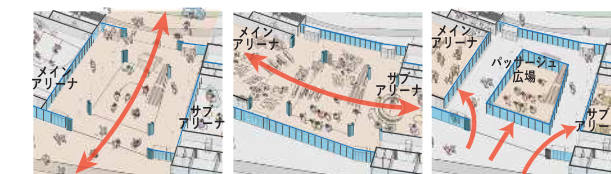
	本提案	積層案	ドーム案
平面			
マイアミ通りより			
周辺建物6階より			
景観	◎ マイアミ通りや近隣など様々な場から桜島への眺望を確保可能	× マイアミ通りや近隣マンションから桜島への眺望が失われる	△ 近隣マンションからの桜島の眺望が失われる
騒音問題	◎ メインアリーナを北に配置し、近隣住居との距離を確保	△ メインアリーナが近隣住居に近く、騒音・振動リスクが高い	△ メインアリーナが近隣住居に近く、騒音・振動リスクが高い
経済性	◎ 低層化により杭不要（地盤改良）面積縮減によりコストを削減	△ 自重増により深い杭基礎が必要	△ 矩形アリーナに対し、ドームが平面上過剰になってしまう

3 立ち寄りといつも何かやっているようなワクワク感。まちに開かれた広場をつくります

〈テーマ2〉桜島の景観を望む本港区エリアにふさわしいデザインを備えた鹿児島島のシンボリック施設 〈テーマ3〉インバンドを含めた観光振興や賑わい創出、中心市街地の活性化

いつも賑わうパッセージ広場

・マイアミ通りの延長線上にある屋根付きの広場は、市街地の賑わいを受け入れる「まちの広場」として機能します。
・ガラスの開閉により、用途に応じた使い分けが可能な設えとし、日常的にはマイアミ通りからウォーターフロントパークへの通り抜けができます。



・アリーナの可動席を広場へ移動することで、イベントや観覧空間としても活用できます。
・天窓から自然光が差し込む明るく快適な滞留空間として賑わいを生み出す場となります。

観客席にもなる海側多目的広場の大階段

・スロープと大階段により市街地や海側等、各方面からアプローチを可能にし、桜島を望む回遊性の高いデッキ空間を形成します。
・大階段は日常の滞留空間に加え、花火大会など海辺のイベント時には観客席としても機能し、ウォーターフロントパークと連続する多目的な広場をより活用的な空間とします。

